

「眩暈(めまい)」は…「げんうん」とも読めるんです③

今回のフジタガンカニュースも、前月号に引き続き『眩暈(めまい)』の解説です。それでは「日本めまい平衡医学会 <http://www.memai.jp/>」のホームページの「めまいのQ&Aコーナー」を参照してみましょう。@@@@@

④ めまいが起こったらどうすればよいか？

めまいには大きく分けて、周囲や天井がぐるぐる回る回轉性めまいと、体がふらつく、真っ直ぐ歩けない、などの浮動性めまいがあります。回轉性めまいは内耳からくることが多く、難聴、耳閉感、耳鳴などの聴覚症状を伴うことがあります。一方、浮動性めまいは立ちくらみ、頭痛、しびれを伴うことがあり、体や頭を動かしたときに増強することがあります。高齢者の方の浮動性めまいでは高血圧、高脂血症、糖尿病、心疾患などの併発症がしばしば見られます。めまいの発症が急な場合には回轉性めまいが多く、吐き気・嘔吐が見られ、この場合には部屋を暗くし、安静にして横になるとかなり楽になります。乗り物酔い止め、吐き気止めの服用も有効です。しかし、なかなか症状が改善しない、手足のしびれ・麻痺・頭痛などの症状がある場合には小脳出血などの脳疾患の可能性もあります。また、聴覚症状がある場合には早期の治療が必要ですので、これらの場合には救急外来ないし耳鼻咽喉科、神経内科、脳外科等をできるだけ早く受診して下さい。発症が緩徐な場合でも、長く続く場合には脳や頸椎、全身の疾患が隠れていることがあるのでやはり詳しい検査が必要です。

⑤ めまいの診断に必要な検査は？ (下図も参照下さい)



めまいは目が回ったり、ふらふらして体のバランスがうまくとれない状態になり、気持ちが悪くなって吐き気がします。めまいの原因は内耳の三半規管や耳石器というバランスの神経の病気で起きることが多いのですが、時には内耳の神経をコントロールする脳(脳幹や小脳など)の病気による事もあります。このため、病気が内耳にあるのか、脳にあるのかを十分に検査して調べる必要があります。めまいの時には目が激しく動くので、目の動きを観察したり記録します(①眼振の検査)。また、体のバランスが乱れている

かどうか検査します(②体平衡の検査)。内耳が原因となっているかどうかは、聴こえの検査(③聴力検査)や耳に注水して人工的に三半規管を刺激する検査(④温度刺激検査)を行うこともあります。脳の検査としては目の動きの検査(⑤ENG検査)や画像検査(⑥CT、MRI)などが役に立ちます。従って、以上のような検査を必要に応じて選択して行い、めまいの原因を診断します。

⑥ めまいの受診科は？

めまいは様々な病気で自覚する症状です。そのため、めまいがあった時にどの診療科を受診したら良いか迷うことが多いと思います。この時に重要となるのは、めまい以外の症状の有無です。聞こえが悪くなっていたり、耳鳴がしたり、耳がつまった感じがするときには、耳の平衡器官によるめまいの可能性が高く、耳鼻咽喉科を受診してください。めまい以外に、意識が遠のいたり、物がふたつに見えたり、ろれつが回らなくなったり、手足の麻痺があるときには、脳の障害によるめまいの可能性があるので神経内科や脳外科を受診してください。めまいのみの時にも、様々な病気が考えられますので耳鼻咽喉科、神経内科、脳外科等を受診して下さい。

突然に初めて経験するめまいで、動くことも出来ない時には、救急処置を受けるために救急外来を受診され、担当する医師の指示に従って頂ければ良いでしょう。当学会のホームページには、めまいを専門としている全国の医師のリストが掲載されていますので参考にして下さい。@@@@@

2016年夏期休診日程

	8/13	8/14~21	8/22
AM	○	×	○
PM	×	×	○
	※×…休診 ○…通常診療		



<http://www.fujita-ganka.com>

今月のフジタガンカニュースは紙面の関係でここまでです。続きは次号をお楽しみに(^ ^)。

今月のお知らせ

7月1日(金)午後と7月2日(土)は、院長が学会に出席、第五回日本涙道・涙液学会でのシンポジスト講演があるため、藤田眼科の診療は**臨時休診**となります。また、本年度の夏期休診の日程は左の通りです。ご迷惑をお掛けしますが宜しく御願ひ致します。

FUJITA-EYE-CLINIC
藤田眼科
エフ・ビジョン(コンタクトレンズ販売)
F-Vision

① **042 (645) 0575**
② **042 (642) 2911**